

特許AIツールの進化：エージェント型 vs. 従来型（機能埋込型）比較ガイド

エージェント型の特徴と主要ツール

ユーザーが「目的」を伝えると、AI側がプランナーとなり、検索・分析・草案作成を自律的な連鎖として実行します。

オーケストレーションの所在：AI主導



主要ツールの特徴と強み

▶ PatSnap：圧倒的なデータ量と開発者向け環境



・2.1億件の特許と2.16億件の非特許文献を基盤



自社専用モデル「PatSnapGPT」とAPI/MCPによる外部連携に最も優れています。

▶ TokkyoAI：日本語実務と説明可能性のバランス



・日本語の知財実務に特化したSaaS

・AIの思考・調査プロセスを可視化する「ディープエージェント方式」を低コストで提供します。

目的別・ツール選択ガイド



グローバル大企業・開発チーム
自社のAIスタックに知財インテリジェンスを組み込みたい場合は、拡張性の高い「PatSnap」が最適です。



日本の知財部門・研究者・中小企業
プライベート環境で、視認性が明確な（説明可能性が高い）SaaSをすぐに使いたい場合は「TokkyoAI」が向いています。

従来型の特徴と主要ツール



ユーザーが画面や機能（検索、要約、翻訳など）を自ら選択し、個別のモジュールを翻動してAIを利用する「Human-in-the-Loop」構造です。

オーケストレーションの所在：人主導



従来ツールの特徴と強み

▶ 従来型グループ：特定工程の高度な支援

Summaria、AI Samurai、Patentfield、Genzo AIなど、各社が専門領域を持っています。



Summaria
(読解・比較)



AI Samurai
(特許性評価)



Patentfield
(大量査読・可視化)



Genzo AI
(実務モジュール化)

詳細比較データ

項目	エージェント型 (PatSnap)	エージェント型 (TokkyoAI)	従来型・ハイブリッド (代表例)
主なAIモデル	PatSnapGPT (自社訓練)	ChatGPT-4o等 (複数AI)	Azure OpenAI, Gemini等
データ更新	日次更新 (所示)	未公開 (最新まで収録)	未公開
API/連携	非常に強い (MCP対応)	基本SaaS内完結	ツールによりAPI連携あり
強み	+ グローバル、内蔵開発	+ 日本設案察、プロセス可視化	+ 業務給制、専門家レビュー

目的別・ツール選択ガイド



業務給制と特定工程の効率化重視
専門家のチェックを給埋とし、特定の作業（拒絶理由対応や先行文献開示など）を頭回りしたい場合は「従来型・ハイブリッド型」が現実的な選択です。